

《大学史の源流を訪ねて：都島工業専門学校》

都工より工専へ

—中路嶋雄先生のこと—

辻 中 昭 一

(機械科・昭和24年3月卒業)

1943年(昭和18年)12月1日、私は海軍甲種飛行予科練習生として、三重海軍航空隊奈良分遣隊に入隊した。10か月の訓練を終え、青島海軍航空隊へ派遣された。そして偵察機搭乗員としての激しい訓練を受けていた。戦況は日本側に不利となり、航空隊全員は青島より約20キロメートル程離れた嶗山^{ろぼうざん}の陣地に移住した。此处で米軍を迎撃する訓練をしていた頃、1945年8月15日の敗戦の日を迎えた。いろいろな経過の後、私は東淀川区大桐町にあった実家に帰り着いた。1945年11月末のことである。しかし、祖国の敗戦によって生じた虚脱状態より私はなかなか脱却できないでいた。

父の奨めにより、都島工業に復学、昭和21年4月に都島工業専門学校機械科へと進学した。金田龍之介と同期となり、都工から進学して来た数名の仲間たちと交遊を深めた。此の工専へ、米国オベリン大学、シカゴ大学で学ばれた中路嶋雄先生(MA, BD)が英語の講師として来任された。

戦後の不安定な社会情勢の中で、何とか勉強に専念できる学生たちを中路先生は叱りとばし、勉強へと駆り立てられた。この先生の意気込みに感動した金田龍之介は猛勉強を始めた。金田龍之介の姿に引っ張られ、私も猛勉強をした。それが後に稔り、昭和31年より足掛け3年の勉学の機会が与えられた。米国オハイオ州デイトン市のUnited Theological Seminaryとコネティカット州ニューヘイブン市のYale University, Divinity Schoolであった。これらの学校への入学のために、中路先生は何通もの推薦状を書いてくださった。金田龍之介は晩年、あちこちで「辻中を扇町教会に連れて行ったのは俺だよ」とよく話していた。

中路先生は都島工専で英語の講師をされていた、と同時に、日本キリスト教団扇町教会でも牧師として大活躍をされていた。そして人生の指針を求めていた多くの青年たちにキリスト信仰への導きを与えられた。都島工専に学んだ学生たちの中で、扇町教会において教会の役員として奉仕された数人の方々の名前が私の頭に浮かんで来る。

戦後の混乱期、都島工専において情熱的な体当たりの教育に励まれた逸材、中路嶋雄先生を懐かしく思い浮かべている私である。

日本キリスト教団夜久野教会 牧師 辻中昭一

(つじなか しょういち)